

# SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

## キンメモドキの群れ

海中には、「おお!!」と声を出してしまうほど、美しく、そして雄大な風景がたくさんある。小さなカメラのフレームで構図を決めるよりも、肉眼で、目の前に展開するダイナミックな光景を、いつまでも見ていたい衝動にかられてしまう。

海中の風景は、刻一刻と変化している。波のゆらぎ、それに合わせて揺れるオオイトバナやヤギなどの、悩ましげな動き。その合間を、小鳥さながらに小魚が舞っている。

海の生きものたちは、己が、どんな衣裳をまとい、どこに生息し、どこを泳げばよいのかを、先刻承知しているのだろう。単独行動をとる魚は、1匹でも目を見張るほどの美しさをかもし出しているし、集団行動をとる小魚などは、地味ながらも群れの形の優雅さは、見る者を惹きつけて止まないのだ。

写真の小魚はキンメモドキといい、体長は3~4センチほどの可憐な魚である。光の加減で体が透けて見え、繊細な骨まで見通すことができる。

昼間は洞窟の入口付近や、潮通しのよい岩礁付近に群れているが、夜は単独行動で、餌を捜して暗い海の中を徘徊する。そして朝を迎えると、再び同じ場所へと戻ってくるのだ。完全に夜行性の魚なのである。

昼間、キンメモドキの群れは、瞬時に向きを変化させたり、流れるように岩の周囲を泳ぎ回ったりする。単独になると、直ぐに大きな魚などに襲われるため、皆で同じ行動をとるのである。おそらく、生まれてから死を迎えるまで、一生逃げ回って生きていくのだろう。



©IKUO NAKAMURA

## Profile

### 中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラバゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。11月は、故郷の秋田で講演・スライドショーを行う予定。中村氏のホームページでは、新作や日々の楽しいエピソードなど、氏の飾らない魅力に触れることができる(<http://www.squall.co.jp/>)。



## 編集後記

今年の巻頭企画シリーズ「学びへのいざない」は、いかがでしたか? 秋の夜長にはブックガイドをご参考に、読書に励まれてはいかがでしょうか。理屈が重視される欧米では、今回の「哲学」は、実践的な学問とみなされているそうです。土屋先生の著書は、笑いながら哲学的なものの考え方に触れられ、特におすすです。来年はまた新しい企画をお届けします。ご期待ください。また、富士通の頑張る(仕事以外で?)社員のページ「High Spirits」は、今号をもちまして最終回となりました。今まで、メッセージを送っていただきました方々、心の中で応援して下さった皆様、どうもありがとうございました。(T.S)

FIND 2001年11月発行 Vol.19 No.6 通巻95号

発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3351 FAX 03-5322-3395

株式会社シーコーポレーション

印刷